

令和元年度第1回学校関係者評価委員会(R1.6.3開催)報告

錦江湾高等学校

【「質疑応答」の時間内での各委員からの意見・助言】

〈A委員（学識者代表）〉

- 授業を見て生徒が生き生きしていた。とてもいい表情だった。校長や先生方の熱い想いが教育活動に具現化されていると感じた。
- 授業を見て、生徒の自発的な学習姿勢が窺えた。ただ状況においては教師からの指導・助言も必要だと思う。

Q 1 SNSの活用について、最近の大学生を見ていると人間関係が表層的で当たり障りのないようにしようとする傾向がある。高校生にもSNSはすでに浸透しているが、学校側は高校生の心身に及ぼす影響をどう考えているか。

A 1 SNSは高校生の生活全てに関わっていると認識している。学校側としてもSNSの意義を受け止めつつ、文字情報だけの意思伝達の危険性も生徒に理解させたい。本校にとってもこの懸案は乗り越えるべき課題だと認識している。(山田)

スマートフォンの長時間使用による睡眠不足、依存症の生徒もいると聞いている。また低年齢化も気になるところだ。ロジック・プログラム等を通じて研究していきたい。(濱田竜)

Q 2 SSH報告書(P72)について、評価後どのように活用されるのか。ループリック表の内容も検討してほしい。

A 2 ループリック評価については、確立に向けて取り組んでいるところだ。推薦入試への利用も多いので今後更に検討してまいりたい。(北迫)

〈B委員（保護者代表）〉

- 剣道部（男子団体）の優勝、おめでとうございます。

Q 3 SSHの取組について、中間評価はいつ、どのように評価されるのか。

A 3 令和2年1月頃に実施予定。文部科学省の担当から50分間のヒアリング及び評価を受けることになっている。3期の取組については、文部科学省から高い評価を得ており、この後の成果も期待されている。(校長)

Q 4 青穂寮の生活について教えてほしい。

A 4 生徒は毎日、午前6時起床している。例年、4月当初に保護者会を開いている。また新入生にアンケートをとって状況の把握に努めている。

入寮当初、1年生は自分のことを自分でやることに戸惑いを感じるが、同時に親への感謝の気持ちを持つようになる。また、2、3年生にもなるとホームシックもなくなり、帰省するより寮に残りたいという生徒もいるほどだ。寮生OBの中には警察官もいて、寮での経験はとても役に立っていると聞いた。寮での学習についても、3回に分けて行っており、リクルート社のスタディ・サプリを活用できる学習環境もある。

(濱田竜)

〈C委員（中学校関係者）〉

- Q 5 生徒の不登校については中学校の課題の一つである。現在の錦江湾高校における不登校の生徒数を教えていただきたい。
- A 5 年度初めの時期のため現在の実数は不明だが、年間毎年10人程度か。不登校傾向のある生徒については、本校の適応推進委員会を通して職員間での共通理解を図っている。（山田）

〈D委員（保護者代表）〉

- Q 6 先日、不審者出没の連絡を受けたが、寮の安全管理も含めて学校はどのような対応をとっているのか。
- A 6 不審者出没の場合は警察，他校からの情報提供を受けて対応している。迅速な対応を心がけてまいりたい。（山田）
- 先日、寮での不審者侵入については、防止策として校内に人感センサーライト，防犯カメラを設置して対応したい。（校長）

〈E委員（地域代表）〉

- SSHについては、これまで理数科が取り組んできた経緯があり、普通科との歪みを感じていた。しかし、全校体制となった今、学校全体がまとまってきたと感じている。
- 授業を見て、生徒のプレゼンテーション能力の高さを感じた。これからの学びを体験できる場としては最高の環境ではないだろうか。今後の進路への反映を期待したい。